

ユーザーズ・マニュアル

KEYLAB ESSENTIAL

UNIVERSAL MIDI CONTROLLER

ARTURIA[®]
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

スペシャルサンクス

ディレクション

Nicolas Dubois

Philippe Cavenel

Frédéric Brun

プログラミング

Sebastien Colin

Leonard Sauget

Olivier Delhomme

インダストリアライゼーション

Nicolas Dubois

マニュアル

Morgan Perrier

Guy Perchard

Tomoya Fukuchi

Matthieu Courouble

Sebastien Colin

デザイン

Glen Darcey

Sébastien Rochard

Axel Hartmann

© ARTURIA SA – 2020 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルに記載されている情報は、Arturia側から事前の予告なく変更される場合があります。本マニュアルに記載されているソフトウェアは、ライセンス契約、または非公開契約の条項の下、提供されています。ソフトウェア使用許諾書には合法的使用の条件が規定されています。本書のいかなる部分もARTURIA S.A.の書面による明示的な許可なく購入者の個人的な使用以外のいかなる形態、または目的でも複製、または送信することはできません。

このマニュアルで引用されているその他の製品、ロゴ、会社名はそれぞれの所有者の商標、または登録商標です。

Product version: 1.0.3

Revision date: 3 January 2020

Arturia KeyLab Essentialを お買い上げ頂きましてありがとうございます！

音楽の旅を行う準備を始めましょう！

KeyLab Essentialは、規格に準拠したユニバーサルMIDIコントローラーで、あらゆるソフトウェア・インストゥルメントやDAWのパワーを活用することができます。ワークフローを強化して、キーボードやマウスを使用して音楽制作を行う時間を短縮し、Arturia Analog Lab 2とシームレスに統合できるように設計されています。

このマニュアルは、KeyLab Essentialの一般的な使用方法と機能について説明し、高度な機能を最大限に活用できるように、各コントローラーの技術的な側面についても詳しく説明しています。

このパッケージに含まれるものは：

- KeyLab Essentialコントローラー・キーボード
- USBケーブル
- クイックスタートガイド このマニュアルは、コントローラー・キーボードを登録し、付属のソフトウェアをアクティベーションするために必要なコードとともに、KeyLab Essentialを起動して使用するための簡単な手順を紹介しています。：
 - Analog Lab 2
 - Ableton Live Lite
 - UVI Grand Piano Model D

レジストレーション・カードは無くさないでください！ フトウェアのロックを解除するにはクイックスタートガイドに記載されているシリアルナンバーとアクティベーション・コードが必要です。

登録することをお忘れなく！ 面倒かもしれませんが、とても大切です。Arturia MIDI Control Center だけでなく、Analog Lab 2をダウンロードして、使用するためにアクティベーションするために必要となります。

使用上のご注意

仕様変更について： 本マニュアルに含まれる情報は、印刷した時点で正しいと思われるものです。しかし、Arturiaは仕様更新に伴う内容の変更、修正等を事前の告知なく行う場合があります。

重要： 感電、破損、火事あるいは他の危険からの大怪我や死に至る可能性を回避するために下にリストアップされている基礎的な注意事項に従ってください。

本機は、ヘッドフォンとスピーカーの両方、またはどちらか一方を使用して、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定出来る場合があります。そのような大音量や不快に感じるほどの音量で長時間本機を操作、演奏しないでください。

難聴、もしくは耳鳴りなどを自覚した場合には、直ちに専門家の診断を受けてください。

注意： 知識の不足による、誤った操作から発生する問題に対するサポートは、保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを要求することをお勧めします。

注意事項としては以下を含みますが、これらに限定されるものではありません。：

1. 取扱説明書を良く読んで、理解してください。
2. 楽器本体に表示されている指示に従ってください。
3. 楽器や周辺機器を清掃する場合は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外してください。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. 楽器を浴室やキッチン、プールなど水気の多い湿った場所で使用しないでください。
5. 楽器を落下の危険性がある、不安定な場所に置かないでください。
6. 楽器の凹みを埋めたり、穴や隙間を塞がないで下さい。これらは、加熱から本体を守るための空気の循環用のものです。また、楽器を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に置かないで下さい。
7. 楽器の筐体を開けたり、異物を挿入したりしないで下さい。火災や感電の原因になります。
8. いかなる液体も楽器に吹き付けしないで下さい。
9. 修理の際は正規サービスセンターに持ち込んで下さい。自身で蓋を開けたりカバーを開けると、保証の対象外となります。不正な調整は、故障や事故の原因になります。
10. 雷発生時には、楽器を使用しないで下さい。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. 楽器を直射日光に当てないでください。
12. ガス漏れが発生している場所付近で楽器を使用しないで下さい。
13. Arturiaは本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失にも責任を持ちません。

もくじ

1. はじめに	2
1.1. KeyLab Essentialを接続する	2
1.2. フロントパネル	2
1.3. リアパネル	3
2. ガイドツアー	4
2.1. キーボード	4
2.2. ピッチ&モジュレーション・ホイール	4
2.3. オクターブコントロール&トランスポーズ	5
2.3.1. オクターブを設定する	5
2.3.2. トランスポーズを有効にする	6
2.3.3. トランスポーズのリセット	6
2.4. コード・モード	6
2.4.1. コード・モードを有効にする	6
2.5. パッド	7
2.5.1. 2.5.1.1. パッドを使用してマップを選択する	7
2.6. MIDIチャンネルの選択	8
2.6.1. MIDIチャンネルの変更	8
2.7. エンコーダー	8
2.8. フェーダー	8
2.9. パート・コントロール	9
2.10. DAWコマンドセンター	10
2.11. プリセットブラウザー&ディスプレイ	11
2.12. パニックメッセージの送信	11
2.13. ファクトリー・リセット	12
3. MIDI Control Center	13
3.1. 完璧なコントローラーにカスタマイズ	13
3.1.1. MIDI Control Centerに接続する	13
3.1.2. デバイスメモリー	14
3.1.3. ローカルテンプレート	15
3.2. MCCコントローラーマップ	16
3.3. パッドのカスタマイズ	17
3.3.1. パッド・オフ	17
3.3.2. パッドMIDIノート	17
3.3.3. パッドスイッチ・コントロール	17
3.3.4. パッド・パッチチェンジ	17
3.3.5. パッドMMC	18
3.4. エンコーダーのカスタマイズ	18
3.4.1. エンコーダー・オフ	18
3.4.2. エンコーダー・コントロール	18
3.5. フェーダーのカスタマイズ	19
3.5.1. フェーダー・オフ	19
3.5.2. フェーダー・コントロール	19
3.6. キーボードのカスタマイズ	19
3.7. サスティンペダルのカスタマイズ	20
3.7.1. サスティンペダル・オフ	20
3.7.2. サスティンペダルのMIDI Note	20
3.7.3. サスティンペダルスイッチ・コントロール	20
3.7.4. サスティンペダルMIDI Machine Control	20
3.8. グローバル・セッティングの変更	21
4. ソフトウェアライセンス契約書	22
5. Declaration of Conformity	24

1. はじめに

1.1. KeyLab Essentialを接続する

最初に、Analog Lab 2やその他の付属ソフトウェアをインストールし、レジストレーションとオーサライズを行うことを推奨します。

付属のUSBケーブルを使用してKeyLab Essentialとコンピューターを接続してください。この接続によって電力も供給することができます。

KeyLab Essentialは、USB規格に準拠したデバイスなので、コンピューターに接続すると自動的にドライバーがインストールされます。これで、コントローラーのキーボードを使用できるようになりました。

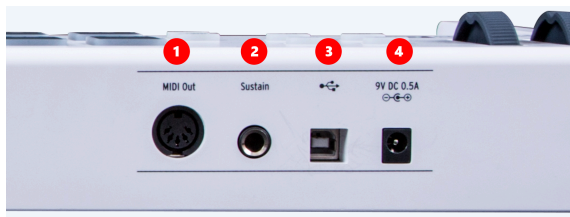
アウトボード機材用の汎用MIDIコントローラーとしてKeyLab Essentialを使用する場合は、オプションの9v DC 500mA PSUアダプターを使用し、標準のMIDIケーブルによってKeyLab EssentialのMIDI OUTソケットからお好みの機材のMIDI INソケットに接続してください。

1.2. フロントパネル



1. **ピッチ&モジュレーション・ホイール** サウンドのピッチバンドとモジュレーション・パラメーターをコントロールするために使用します。
2. **2. オクターブ、コード&トランスポーズ・ボタン** KeyLab Essentialの様々なピッチコントロールやコード機能を有効にします。
3. **3. パフォーマンス・パッド** このパッドは、パーカッシブなサウンドをパフォーマンスしたり、DAW内のサンプルをトリガーしたりKeyLab Essentialのマップ・モードをAnalog Lab 2、DAWの機能、ユーザー作成のテンプレートなどに切り替えるために使用可能です。
4. **4. DAWコマンド・センター** KeyLab Essentialのこのセクションでは、トランスポート・コントロールや一般的なコマンドを含むお好みのオーディオレコーディング・ソフトウェア内の様々な機能をコントロールすることができます。
5. **5. プリセット・ブラウザー&ディスプレイ** このセクションは、Analog Lab 2でのプリセットを選択し、メニューをナビゲート、パラメーターやプリセット情報を表示するために使用することができます。
6. **6. パートコントロール** このアサインナブル・ボタンの小さなセクションは、Analog Lab 2のマルチモード内の2つのパート、DAWモードでの専用ライブマップやトラックのシフトを行う場合に使用します。
7. **7. エンコーダー** ロータリー・ノブは、DAW内のソフトウェア・インストゥルメントのパラメーターやチャンネル・パンをコントロールするために使用することができます。
8. **8. フェーダー** コンパクトなフェーダーは、DAW内のチャンネル・ボリュームを調整するだけでなく、ソフトウェア・インストゥルメントのパラメーターの調整にも使用することができます。

1.3. リアパネル



1. **MIDIアウト** KeyLab EssentialのMIDIアウトは、UAS経由ではなくオプションの電源アダプターを使用して電源を供給すると、MIDI情報を外部のシンセサイザーやモジュールに送信することが可能です。
2. **サスティンペダル入力** サスティンペダル・インは、KeyLab Essentialが恩になったときにサスティンペダルの極性を自動的に検出するのでほとんどのペダルで使用可能です。
3. **USB端子** この端子を介してKeyLab Essentialをデバイスに接続してください。このポートは、電源、MIDIデータ、コントロール情報を提供します。
4. **電源ソケット** MIDIアウト使用し、KeyLab Essentialをスタンドアローン・モードで使用する場合、オプションの9v DC 500mA PSUをここに接続してください。

2. ガイドツアー

2.1. キーボード



KeyLab Essentialの49鍵と61鍵バージョンはベロシティ対応のシンセアクションキーボードを、88鍵バージョンはセミウェイトド鍵盤を採用しています。

メロディーなどの演奏をレコーディングするために使用します。KeyLab EssentialのMIDIチャンネルを変更するためにMIDIチャンネルセレクト機能と併用することも可能です。

2.2. ピッチ&モジュレーション・ホイール



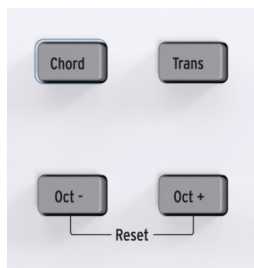
リアルタイムにピッチシフトやモジュレーション・コントロールを行うことができます。

ピッチホイールを上下に動かすと音の高さ（音程）が上下します。この効果の範囲は、コントロールしているハードウェア、またはソフトウェア側で設定することができます。

モジュレーションホイールを上動かすと選択したサウンドのモジュレーション設定が増加します。サウンドに与える影響は、コントロールしているインストゥルメントの設定によって異なります。使用するインストゥルメントやプリセットによっては、モジュレーション・パラメーターを使用していないこともあります。

これらのコントロールは、標準的なMIDIコマンドを送信し、MIDI Control Centerを使用してカスタマイズすることはできません。

2.3. オクターブコントロール&トランスポーズ



2.3.1. オクターブを設定する

Oct - と Oct + ボタンを押すとKeyLab Essentialのキーボード・レンジをシフトし、より高い音程や低い音程にアクセスすることができます。

選択したオクターブ・ボタンが有効になると、特定の速度で点滅し、キーボードがどれくらい高く、または低くシフトされたかを示します。これは、以下のように表示されます。：

- **オクターブ +3:** Oct + 速い点滅
- **オクターブ +2:** Oct + 普通の点滅
- **オクターブ +1:** Oct + ゆっくりな点滅
- **スタンダード:** どちらのボタンも点滅しない
- **オクターブ -1:** Oct - ゆっくりな点滅
- **オクターブ -2:** Oct - 普通の点滅
- **オクターブ -3:** Oct - 速い点滅

オクターブ・シフトを素早くリセットし、KeyLab Essentialをセンター位置に設定するにはOct - と Oct + ボタンの両方を同時に押してください。



注：オクターブとトランスポーズの両方の設定は、ユーザーマップのプリセットに保存することができます。


2.3.2. トランスポーズを有効にする

トランスポーズ機能は、キーボードの音程をシフトさせて、できるだけ簡単に演奏できるように調整することができます。

例えば、特定のキーの曲を歌うことが得意なボーカリストの伴奏をする場合、それに合わせてキーボードをトランスポーズすることができます。プレーヤーは、シンプルにキーボードをトランスポーズし、いつものように演奏することができます。

KeyLab Essentialでトランスポーズを行うには、Transボタンを押したまま、鍵盤のCの位置で聴きたい音符を選択してください。中央のCより低い音は下へトランスポーズし、高い音は上にトランスポーズします。

Transボタンが明るく転倒し、トランスポーズ・モードが有効になっていることを知らせます。

 注：トランスポーズ機能の設定範囲は-11～+11です。この範囲を拡張するには、オクターブ機能と組み合わせて使用してください。

以前に設定したトランスポーズのオン/オフを切り替えることができます。無効になっている間は、トランスポーズ・ボタンは、薄暗く点灯して前の選択を記憶していることを表示します。

2.3.3. トランスポーズのリセット

トランスポーズをリセットするには、Transボタンを押したままCノートを選択してください。その後、ライトは消灯します。

この機能は、オクターブ・ボタンと組み合わせて使用可能です。

2.4. コード・モード

KeyLab Essentialは、1本の指で任意のコードを演奏可能なコード・モードを備えています。これはコンポジションを厚くし、メロディにさらなる深さを加えるためのクリエイティブなツールです。

2.4.1. コード・モードを有効にする

コード・モードを有効にするには、コード・ボタンを押したまま、キーボードで希望するコードを最大10オンまで入力してください。コードボタンを離すと1つのノートを押すだけで入力したコードを演奏することができるようになります。

 注：片手で演奏するのが難しいコードをプログラムしたい場合は、コードボタンを押しながら各ノートを1つずつ押してください。

選択したコードの最低音はルート音としてみなされ、新しいノートに自動的に移調されます。例えば、コード機能を使用してシンプルな2音符のコードを演奏する場合、コード・ボタンを押しながらCとGを同時に押し、コード・ボタンを離してください。これでこのコードはどのキーでも演奏可能です。

この機能は、オン/オフを切り替えることができますが、ユニットの電源が入っている間は、コード・ボタンを押すと、以前に使用されたコードを演奏します。

2.5. パッド



KeyLab Essentialは、ベロシティ・センシティブとプレッシャー・センシティブの2つの機能を備えた8つのパフォーマンス・パッドを装備しています。

デフォルトでは、ドラムやパーカッションのパートを演奏するために使用されるMIDIデータが出力されます。8つのパッドの出力は以下の通りです。：

パッド	MIDIノート	デフォルトMIDIチャンネル
Pad 1	C1 / 36	10
Pad 2	C#1 / 37	10
Pad 3	D1 / 38	10
Pad 4	D#1 / 39	10
Pad 5	E1 / 40	10
Pad 6	F1 / 41	10
Pad 7	F#1 / 42	10
Pad 8	G1 / 43	10

パッドは、Arturia MIDI Control Centerを使用してユーザー・マップ内の任意のMIDI CCパラメーター、またはノートに再アサインすることができます。

2.5.1. 2.5.1.1. パッドを使用してマップを選択する

パッドを使用してKeyLab Essential内の様々なマップ・オプションを選択することも可能です。

マップセレクト・ボタンを押すと、対応するパッドが点灯し、現在選択されているマップが表示されます。利用可能な8種類のマップは以下の通りです。：

- **Analog Lab:** KeyLab EssentialのコントロールをAnalog Lab 2とシームレスな連携をもたらします。これらのパラメーターは、青色のテキストでマークされています。
- **DAW:** KeyLab Essentialのコントロールをレコーディング・ソフトウェアの異なる面をコントロールするために使用することが可能になります。
- **User:** 6種類の個別のユーザーバンクを使用してカスタムマップの作成が可能です。これらは、Arturia MIDI Control Centerを使用して作成、編集が可能です。

2.6.2.6. MIDI チャンネルの選択

KeyLab Essentialは、出力しているユーザーMIDIチャンネルを素早く効率的に変更する方法を提供します。

2.6.1. MIDIチャンネルの変更

MIDIチャンネルを変更するには、シンプルにMIDI CHボタンを押しながら、選択したいMIDIチャンネルの下の鍵盤を押してください。これでMCCのユーザーMIDIチャンネルに従うように設定されたすべてのコントロールがそのチャンネルに変更されます。

例えば、KeyLab EssentialのアウトプットをMIDIチャンネル8に設定するには、MIDI CHボタンを押しながらキーボードのE2のキーを押します(61鍵バージョンの場合)。

2.7. エンコーダー



KeyLab Essentialの9つのロータリーノブは、デュアル・ファンクションを備えたエンドレス・エンコーダーです。

Analog Labマップを使用すると、エンコーダーは、Analog Lab 2内に表示される対応したパラメーターに影響します。コントロールされるパラメーターは、使用するプリセットによって異なります。

DAWマップでは、エンコーダーはミキサーの対応するチャンネルのパンを変更することができます。

Userマップのいずれかを使用している場合は、Arturia MIDI Control Centerを使用して選択した任意のMIDI CCパラメーターにノブを割り当てることができます。

2.8. フェーダー



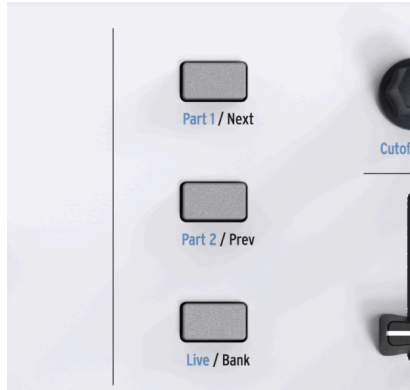
エンコーダーと同じようにKeyLab Essentialの9つのフェーダーは、使用しているマップに応じて複数のモードを備えています。

フェーダーは、**Analog Labマップ**を使用してAnalog Lab 2内に表示される対応したパラメーターをコントロールします。エンコーダーと同じようにコントロールされるパラメーターは、使用するプリセットによって異なります。

DAWマップを使用している場合、フェーダー1~8は、DAW内の8チャンネルのボリュームをコントロールし、フェーダー9はマスターボリュームをコントロールします。

フェーダーは、**ユーザーマップ**のいずれかを使用している間に、他のMIDI CCパラメーターをコントロールすることもでき、Arturia MIDI Control Centerを使用してアサインすることも可能です。

2.9. パート・コントロール



3つのコントロール・ボタンは、KeyLab Essentialのエンコーダーとフェーダーの機能を切り替えたり、DAWマップの使用中に異なるチャンネルをコントロールしたり、Analog Labのマルチモードの3つのセクションすべてのパラメーターをコントロールするために使用することができます。

Analog Labマップを使用すると、コントロール・ボタンは、以下のように機能します。：

- **Part 1:** Analog Labマルチモードでパート1を選択してコントロールします。
- **Part 2:** Analog Labマルチモードでパート2を選択してコントロールします。
- **Live:** マクロパラメーター、レベル、パン、センドA&センドBコントロールを選択してコントロールします。

i ヒント：Analog Lab 2でマクロを設定する方法と、マルチモードを有効にする方法については、Analog Lab 2のユーザーズマニュアルを参照してください。l

DAWマップを使用すると、コントロールボタンは次のように機能します。：

- **Next / Prev:** DAWのエンコーダーやフェーダーのフォーカスを移動します。量はアmount・ボタンで決定します。：
 - Bank オン：トラックを8チャンネル分シフトします。
 - Bank オフ：トラックを1チャンネル分シフトします。
- **Bank:** Next/Prevボタンの機能を切替えます。

ユーザー・マップを使用する場合、MCCを使用してこれらのボタンを再マッピングし、KeyLab Essentialエクスペリエンスをカスタマイズし、パーソナライズすることができます。

2.10. DAWコマンドセンター



KeyLab Essentialは、業界標準のMackie HUIデータ言語を使用してレコーディング・ソフトウェアで最も頻繁に使用されるcommandに直接アクセスすることができます。：

- **Save:**トラックを保存します。k.
- **Punch:** DAWでパンチイン・スタイルのレコーディングを有効にします。
- **Undo:**トラックの削除やMIDI演奏のキャプチャーなど、最後の操作を元に戻すことができます。
- **Metro:** DAWのメトロノームをオン/オフすることができます。

DAWコマンドセンターでは、一般的なトランスポート管理を指先だけで行うことができます。：

- **Loop:** DAWのループ機能のオン/オフを切替えます。ルールエリアはソフトウェア内で設定します。
- **Rewind / Fast-forward:** 再生カーソルを前後に素早くジョグして、エディット中2トラック内の特定のポイントを素早く見つけることができます。
- **Stop:** 再生をストップします。一部のレコーディング・ソフトウェアでは、再生カーソルがトラックの先頭に戻ります。
- **Play / Pause:** DAWを再生カーソルの現在位置でトラックを再生、または一時停止させます。
- **Record:** DAWのレコード機能を停止します。トラックが停止しているときにレコード・ボタンを押すと、レコーディング中に再生が始まります。トラックがすでに再生されている場合、レコードを押すと、現在の再生カーソル位置からレコーディングが開始されます。

DAWコマンドセンターのボタンは、設定されたコントロール・メッセージをソフトウェアに送信し、設定を行うことはできません。

DAWコマンドセンターの出力は、MCC内のMCUプロトコルとHUIプロトコルの間で切り替えることができます。

i 注: 選択したDAWとのKeyLab Essentialの互換性は、各メーカーがMCU、HUIプロトコルをどのように処理するかによって異なります。詳細については、ArturiaのウェブサイトのKeyLab Essentialページ、またはご使用のDAWのマニュアルを参照してください。

2.11. プリセットブラウザー & ディスプレイ



KeyLab Essentialは、強力なプリセット・ブラウザーとクリック可能なジョグホイールを備えており、Analog Lab 2で探しているサウンドに素早くアクセスすることが可能です。

Analog Labマップを使用すると、プリセット・ブラウザー全体がAnalog Lab 2専用ナビゲーターになります。5,000を超えるプリセットから素早く適切なサウンドを選択することがKeyLab Essentialによって容易になります。

Cat/Char スイッチではジョグホイールを使用してタイプ、キャラクター、インストゥルメントを選択して、検索範囲を絞り込むことが可能です。

必要なものを強調表示させ、ジョグホイールを押して選択してください。選択すると選択肢にアスタリスク (*) が付加されます。ジョグホイールをもう一度クリックするか、Analog Lab 2の"Clear Filter"オプションを使用し、選択内容を削除することができます。

目的のキャラクターを選択したら、**プリセット・スイッチ**を押し、ジョグホイールを使用して、選択したプリセットにあったプリセットを選択することができます。プリセットを選択するには、ジョグホイールを押してください。

シーケンスで多くのプリセットを試し、適切なサウンドを見つけたい場合は、**Backward/Forwardボタン**を使用してください。これらのボタンを使用するときは、ジョグホイールを押して選択する必要はありません。

プリセット名、ブラウジング情報、キャラクターは、**2行のLCDディスプレイ**に表示されます。



ヒント:DAWマップが選択されている場合、ジョグホイールを使用してレコーディング・ソフトウェア内の再生カールを前後に動かし、ワークフローをスピードアップさせることが可能です。

2.12. パニックメッセージの送信

場合によっては、バーチャル・インストゥルメント上のスイッチを変更したり、演奏中に異なるインストゥルメント間で切替えた後に一部のノートが継続して演奏されることがあります。

すべてのコントローラーをリセットし、すべてのMIDIチャンネルに“ノートオフ”メッセージを送信する“パニックメッセージ”を送信することで簡単にこれを修正することができます。

KeyLab Essentialを使用してこれを行うには、<と> ボタンを同時に押し続けてください。

2.13. ファクトリー・リセット

必要に応じて、KeyLab Essentialを工場出荷時の状態にリセットすることも可能です。ユニットを初期化し、デフォルト状態にします。

KeyLab Essentialを工場出荷時にリセットするには、以下の簡単な手順を行ってください。：

- KeyLab EssentialのUSBケーブルが抜かれていることを確認してください。
- Oct+ と Oct- ボタンを長押ししてください。
- USBケーブルを挿入してください。
- LCD画面にファクトリーリセット・メッセージが表示されます。
- 中央のノブを押してリセットを確認してください。



*警告: * 工場出荷時の状態にKeyLab Essentialをリセットすると、保存されていたすべての内部ユーザーマップがクリアされます。Arturia Software Centerを使用して設定をバックアップしてください。

3. MIDI CONTROL CENTER

KeyLab Essentialは、最も重要で頻繁に使用するコントロールにすばやくアクセスできるように設計されています。サブメニューに余分な機能を埋め込むのではなく、Arturia MIDI Control Centerを使用してオリジナルのパーソナライズ・マップのざくせいなど作成して、コントローラーのあらゆる機能にアクセス可能です。



3.1. 完璧なコントローラーにカスタマイズ

新しいコントローラー・キーボードを使用するには、MIDI Control Centerをインストールする必要はありませんが、その機能を拡張してKeyLab Essentialの幅広い機能を最大限に活用したい場合は、インストールすることをお勧めします。

オリジナルのカスタム・ユーザーマップを作成し、KeyLab Essentialの機能についてもっと学ぶために少しの時間をかけてみると大いに報いることができるでしょう。このシンプルでパワフルなコントローラーで実現できることに驚かれるでしょう。

3.1.1. MIDI Control Centerに接続する

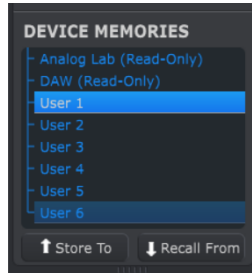
MIDI Control Center (MCC) をインストールしたらKeyLab Essentialがコンピューターに接続されている間にプログラムを開くだけです。

MCCは自動的にコントローラーにアクセスし、メインウィンドウにその画像を表示します。

ヒント： 複数のArturiaデバイスを同時に接続している場合、MCCのデバイスセクションにあるドロップダウンメニューからエディットするArturiaデバイスを選択することができます。

これで、KeyLab Essentialが接続されました。コントローラーをパーソナライズする簡単な方法をいくつか紹介します。：

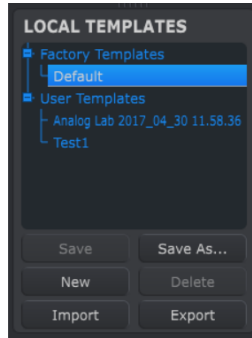
3.1.2. デバイスメモリー



MCCのデバイスメモリー・セクションには、KeyLab Essential内の8つのマップに対応する8個のバンクが表示されます。

- **Analog Lab** - このマップは、KeyLab EssentialをAnalog Lab 2 専用に作られています。この特定のマップは読み取り専用で変更することができません。
- **DAW** - このマップは、KeyLab Essentialを使用してレコーディング・ソフトウェアをコントロールするように設計されています。このマップも読み取り専用で変更することができません。
- **User 1-6** - これらのマップは、KeyLab Essentialのユーザーマップ1~6に対応し、KeyLab Essentialで使用するためのカスタマイズに使用できる保存可能なマップです。
- **Store to** - 現在のテンプレートを強調表示したユーザースロットに保存可能です。
- **Recall from** - 強調表示したマップをリコールすることができます。保存する前に設定をエディットや調整し、KeyLab Essentialスロットの1つに保存することができます。

3.1.3. ローカルテンプレート



ローカルテンプレート・セクションでは、KeyLab Essentialの設定をセーブ、リコールしなくてもカスタムのユーザーマップを保存、整理することができます。Arturiaのユーザーコミュニティから生成された事前設定済みのマップをロードするために使用することもできます。

- **Factory templates** - このセクションでは、KeyLab Essentialのデフォルト設定を表示し、スタートしたり、リターンするための便利な“イニシャライズ”パッチを提供します。
- **User templates** - コンピューター内に保存されているユーザーマップを表示します。これらは、ユーザーによって作ることもでき、他のユーザーによって作成されたマップをインポートすることもできます。
- **Save** - 現在のユーザーマップに行った変更を保存します。
- **Save As** - 現在のユーザーマップのコピーを保存し、新しい名称を付けることができます。
- **New** - 新しくデフォルトのユーザーマップを作成します。
- **Delete** - 強調表示されているユーザーマップを削除します。
- **Import** - ブラウザーを開き、既存のユーザーマップをインポートすることができます。目的のファイルを探し、**Open**をクリックしてください。
- **Export** - 選択した場所にユーザーマップをエクスポートすることができます。場所を選択し、ファイルの名称を付けてください。

3.2. MCCコントローラーマップ



MCCのこのセクションでは、パフォーマンスパッド、ロータリーエンコーダー、フェーダー、キーボード、サスティンペダル入力の反応をカスタマイズすることができます。これらの設定は、KeyLab Essentialの6つのユーザーマップの1つに保存可能です。

もし、混乱することがあっても心配しないでください。MIDI Control Center によってKeyLab Essentialを壊すようなことはありません。パラメーターを微調整したり、実験、またはオリジナルのマップを作成して楽しむことができます。気に入らなかったときは、いつでもデフォルトのテンプレートをリロードすることができます。

変更するパラメーターの選択は、変更したいコントローラー部分にマウスを置き、クリックしてください。



注： KeyLab Essentialの一部のセクション（DAWコマンドセンターなど）はカスタマイズできません。

マニュアルの次の部分では、各コントロールで使用可能なオプションを紹介していきます。

3.3. パッドのカスタマイズ

モード・メニューでは、パッドごとに使用できるモードを選択可能です。各モードには、個別のパラメータセットが含まれています。：

3.3.1. パッド・オフ

パッドを無効にします。パーソナル・ユーザーマップで必要のないときに、パッドを誤って動作させないようにオフにしておくことができます。

3.3.2. パッドMIDIノート

このオプションは、パッドを使用してMIDIノートを出力するために使用します。

- **Channel:** 選択したパッドが出力するMIDIチャンネルを1～16の間で選択します。これは“User”に設定する事もでき、それはパッドがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **Color:** パッドを叩いたり、オンにした時に点灯するパッドの色を選択します。
- **Note:** 演奏時にパッドから出力するMIDIノートをC-2～G8の間で選択することができます。
- **Option:** ゲート、またはトグルのどちらかを選択することができます。ゲートは、叩いたり、押した時のみパッドを動作させ、トグルは、叩いた時に動作をはじめ、もう一度叩いた時にオフになります。

3.3.3. パッドスイッチ・コントロール

このオプションは、特定のノートを出力するのではなく、パラメーター・コントローラーとしてパッドを使用するように選択することができます。

- **Channel:** 選択したパッドのMIDIチャンネル出力を1～16の間で選択します。これを“user 2”に設定することもでき、これにより、それはパッドがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **Color:** パッドを叩いたり、オンにした時に点灯するパッドの色を選択します。
- **CC Number:** このパッドに割り当てるMIDIcommandを選択します。標準的なMIDIアサインは、ドロップダウンメニュー内で決めることができ、選択しをナビゲートするのに役立ちます。
- **Option:** ゲート、またはトグルのどちらかを選択することができます。ゲートは、叩いたり、押した時のみパッドを動作させ、トグルは、叩いた時に動作をはじめ、もう一度叩いた時にオフになります。

3.3.4. パッド・パッチチェンジ

KeyLab Essentialのパッドを使ってバーチャルインストゥルメント、アウトボード・シンセサイザーなどのパッチやプログラムの変更をトリガすることができます。

- **Color:** パッドを叩いたり、オンにした時に点灯するパッドの色を選択します。
- **Channel:** 選択したパッドのMIDIチャンネル出力を1～16の間で選択します。これを“user 2”に設定することもでき、これにより、それはパッドがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **Program Number:** パッドがアクティブになったときに変更したいMIDIプログラムナンバーを選択します。スクリーンのロータリーを使用して0～127の値を選択してください。
- **Bank LSB and Bank MSB:** パッドがアクティブになったときに決定される最下位の値と最上位の値を定義することができます。スクリーンのロータリーを使用して0～127の値を選択してください。これらのパラメーターの設定方法を決定するには、KeyLab Essentialを使用してコントロールしているハードウェア、またはソフトウェア・インストゥルメントのマニュアルを参照してください。

3.3.5. パッドMMC

このシンプルなオプションを使用すると、KeyLab EssentialのパッドのいずれかをMMCコマンドボタンとして使用することができます。

- **Color:** パッドを叩いたり、オンにした時に点灯するパッドの色を選択します。
- **MMC:** パッドに使用可能な3種類（スタート、ストップ、レコード）のMMCオプションから選択します。

3.4. エンコーダーのカスタマイズ

モードメニューでは、各エンコーダーで使用可能な2種類のモードを選択することができます。各モードにはそれぞれにパラメータセットが含まれています。：

3.4.1. エンコーダー・オフ

ロータリー・エンコーダーを無効にします。パーソナル・ユーザーマップで必要のないときに、エンコーダーを誤って動作させないようにオフにしておくことが可能です。

3.4.2. エンコーダー・コントロール

- **Name:** ノブを使用する時にLCDスクリーンに表示されるエンコーダーの名称を入力します。最大12文字まで使用可能です。
- **Option:** エンコーダーのレスポンスを“Absolute”と“Relative #1-3”で切替えます。
- **Acceleration:** このパラメーターは、ロータリーエンコーダーを回転させる速度に応じてどのように反応するか設定します。以下のように設定可能です。：
 - *None:* エンコーダーは、設定速度で移動し、加速しません。
 - *Medium:* エンコーダーの移動速度が速くなります。
 - *Fast:* エンコーダーはより速く回すと素早く加速します。
 - *1:1:* エンコーダーは、ロータリーノブを回す速度と正確に一致します。
- **Channel:** 選択したエンコーダーが出力するMIDIチャンネルを1~16の間で選択します。これは“User”に設定する事もでき、それはエンコーダーがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **CC Number:** パッドに割り当てるMIDIコマンドを選択します。標準的なMIDIアサインは、ドロップダウンメニュー内に挙げられ、選択肢をナビゲートするのに役立ちます。
- **Min Value & Max Value:** このパラメーターを使用すると、ロータリーがスウィープする最小値と最大値を設定可能です。

ヒント: エンコーダーの最小値と最大値を設定することは、シンセパラメーターのスウィートスポット内を移動することを確実にするための素晴らしい方法といえます。

3.5. フェーダーのカスタマイズ

モードメニューでは、各フェーダーで使用できる2種類のモードを選択することができます。各モードにはそれぞれにパラメーターセットが含まれています。:

3.5.1. フェーダー・オフ

フェーダーを無効にします。パーソナル・ユーザーマップで必要のないときに、フェーダーを誤って動作させないようにオフにしておくことが可能です。

3.5.2. フェーダー・コントロール

このモードは、標準モードで、使用時に各フェーダーがどのように反応するかをカスタマイズすることができます。

- **Name:** フェーダーを使用する時にLCDスクリーンに表示されるフェーダーの名称を入力します。最大12文字まで使用可能です。
- **Option:** 従来のフェーダー、またはドローバーのように動作するかを設定することができます。
- **Channel:** 選択したフェーダーが出力するMIDIチャンネルを1~16の間で選択します。これは“User”に設定する事もでき、それはフェーダーがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **CC Number:** フェーダーに割り当てるMIDIコマンドを選択します。標準的なMIDIアサインは、ドロップダウンメニュー内に挙げられ、選択肢をナビゲートするのに役立ちます。
- **Min Value & Max Value:** このパラメーターを使用すると、フェーダーがスウィープする最小値と最大値を設定可能です。

3.6. キーボードのカスタマイズ

KeyLab Essentialのキーボードは、MIDI Control Centerを使用してモディファイすることが可能です。

- **Channel:** KeyLab Essentialが出力するMIDIチャンネルを1~16の間で選択します。これは“User”に設定する事もでき、それはフェーダーがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **Semi:** このパラメーターは、キーボードのトランスポーズをコントロールするために使用することができます。-11~+11までの間で半音単位で設定可能です。
- **Octave:** このパラメーターは、キーボードのオクターブのトランスポーズを設定するために使用します-3~+3オクターブの範囲内で設定可能です。



ヒント: デバイス設定内のキーボードのダイナミックレンジを変更できることを忘れないでください。

3.7. サスティンペダルのカスタマイズ

モードメニューでは、サスティンペダルで使用できる様々なモードを選択することができます。各モードにはそれぞれにパラメーターセットが含まれています。:

3.7.1. サスティンペダル・オフ

サスティンペダルを無効にします。パーソナル・ユーザーマップで必要のないときに、エンコーダーを誤って動作させないようにオフにしておくことが可能です。

3.7.2. サスティンペダルのMIDI Note

このオプションは、サスティンペダルを使用して標準のMIDIノートを出力するために使用することができます。

- **Option:** ゲートとトグルのどちらかを選択します。ゲートはサスティンペダルを踏んだ時のみ有効にし、リリース時は無効になります。トグルは、押すとパッドが有効になり、もう一度押すと無効になります。
- **Channel:** 選択したパッドのMIDIチャンネル出力を1~16の間で選択します。これは“User”に設定する事もでき、それはフェーダーがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **Note:** サスティンペダルが押された時に出力されるMIDIノートはC-2 ~ G8の間で設定することができます。

3.7.3. サスティンペダルスイッチ・コントロール

サスティンペダルをパラメーター・コントローラーとして使用する場合は、このオプションを選択してください。

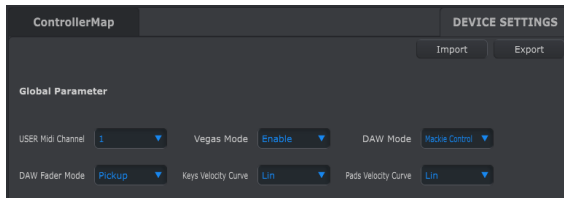
- **Option:** ゲートとトグルのどちらかを選択します。ゲートはサスティンペダルを踏んだ時のみ有効にし、リリース時は無効になります。トグルは、押すとパッドが有効になり、もう一度押すと無効になります。
- **Channel:** 選択したパッドのMIDIチャンネル出力を1~16の間で選択します。これは“User”に設定する事もでき、それはフェーダーがデバイス設定で選択しているデフォルトMIDIチャンネルに出力されます。
- **CC Number:** サスティンペダルにアサインしたいMIDIコマンドを選択することができます。ドロップダウンメニューで、標準的なMIDIアサインに名前を付けることができますが、通常のサスティンペダルで使用する場合は、#64に設定してください。
- **Off Value and On Value:** サスティンペダルのオン/オフのMIDI値を選択することができます。これらの設定を使用してペダルのフィーリングや、楽器との反応をカスタマイズ可能です。下面上のノブを回して0~127の間の値を選択してください。

3.7.4. サスティンペダルMIDI Machine Control

このシンプルなオプションは、KeyLab Essentialのサスティンペダル入力をMMCコマンドスイッチとして使用することができます。

- **MMC:** 使用可能な3種類（スタート、ストップ、レコード）のMMCオプションから選択します。

3.8. グローバル・セッティングの変更



MCCの**Device Settings** セクションでは、KeyLab Essentialのグローバル・セッティングの一部を変更可能です。各パラメーターがどんな機能を持つか解説します。：

- **User MIDI Channel:** KeyLab EssentialのデフォルトMIDIチャンネル出力を1～16の間で設定可能です。
- **Vegas Mode:** KeyLab Essentialを待機状態にして約5分間放置するとカラフルなライトショーが始まります。これをオン/オフさせることができます。
- **DAW Mode:** このパラメーターでは、DAWコマンドセンターで使用するコントロール言語をMackieまたはHUIの間で切り替えることができます。選択したDAWに応じてこの設定を変更し、レコーディングソフトウェアでKeyLab Essentialの機能を最大限に活用できるようになります。
- **DAW Fader Mode:** この設定は、KeyLab Essentialのフェーダーがレコーディングソフトウェア内でどのように反応するかを変更します。使用可能なモードは2種類あります。
 - **Pickup:** DAWのフェーダーは、徐々に動き、コントローラーの現在の位置に合わせて移動します。
 - **Jump:** DAWのフェーダーは、コントローラー上のフェーダーの位置にすぐにジャンプし、コントローラーの動きに追従します。
- **Keys Velocity Curve & Pads Velocity Curve:** KeyLab Essentialのキーボードとパフォーマンス・パッドのレスポンスを変更可能です。
 - **Lin:** Linear - キーとパッドの強さは、MIDIベロシティの出力と一致し、バランスの取れたレスポンスを提供します。
 - **Log:** MIDIベロシティ出力のフォーカスをよりソフトにするようにシフトさせ、より高いベロシティをたたくのが難しくなり、ソフトで中央付近のベロシティでより広い範囲のアーティキュレーションを得ることができます。
 - **Exp:** MIDIベロシティ出力のフォーカスをよりハードにし、ソフトなベロシティでの入力を難しくします。中央、またはハード・ベロシティで広い範囲のアーティキュレーションを得ることができます。
 - **Full:** MIDIベロシティの常に最大値の127で出力します。

この設定を**インポート/エクスポート**して、すべてのグローバル・パラメーターを素早く設定することで時間を短縮することができます。

4. ソフトウェアライセンス契約書

ライセンス料（あなたが支払った金額の一部）を考慮し、アートリア社はライセンサーとしてあなた（被ライセンス者）にAnalog Lab Liteソフトウェア（以下、ソフトウェア）のコピーを使用する非独占的な権利を与えます。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアによるレジストレーションの後に、使用可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重にいかのテキストをお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しにおこなうことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用に興味を持たないものとします。アートリア社は、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス。コントロールとしOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。セクション11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポートアップグレード、アップデートを受けることができます。サポートは新バージョン発表後1年間、前バージョンのサポートを提供します。アートリア社は、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の性質をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に調整することができます。

製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メールアドレス、ライセンスデータなど）に同意するよう求められます。アートリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 お客様は、常に1台のコンピューターで使用することを前提として、一時的に別のコンピューターにインストールして使用することができます。お客様はネットワークシステムなどを介した複数のコンピューターに、ソフトウェアをコピーすることはできません。お客様は、ソフトウェアおよびそれに付随する物を複製して再配布、販売等をおこなうことはできません。お客様はソフトウェアもしくはそれに付随する記載物等をもとに、改ざん、修正、リバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、翻訳などをおこなうことはできません。

6. 著作権 ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は強く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、及びアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョン、または下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョン、下位バージョンを転送した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレード、及び最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョン、及び下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（仕事の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

5. DECLARATION OF CONFORMITY

USA

Important notice: DO NOT MODIFY THE UNIT!

This product, when installed as indicate in the instructions contained in this manual, meets FCC requirement. Modifications not expressly approved by Arturia may avoid your authority, granted by the FCC, to use the product.

IMPORTANT: When connecting this product to accessories and/or another product, use only high quality shielded cables. Cable (s) supplied with this product **MUST** be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.

NOTE: This product has been tested and found to comply with the limit for a Class B Digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide a reasonable protection against harmful interference in a residential environment. This equipment generate, use and radiate radio frequency energy and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interferences harmful to the operation to other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interferences will not occur in all the installations. If this product is found to be the source of interferences, witch can be determined by turning the unit “OFF” and “ON”, please try to eliminate the problem by using one of the following measures:

- Relocate either this product or the device that is affected by the interference.
- Use power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter(s).
- In the case of radio or TV interferences, relocate/ reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to coaxial cable.
- If these corrective measures do not bring any satisfied results, please the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Arturia.

The above statements apply **ONLY** to those products distributed in the USA.

CANADA

NOTICE: This class B digital apparatus meets all the requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulation.

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

EUROPE



This product complies with the requirements of European Directive 89/336/EEC

This product may not work correctly by the influence of electro-static discharge; if it happens, simply restart the product.